

平成26年度泉大津市外部評価結果後の方向性と取組予定

| No. | 事業名 | 評価結果 | 主なコメント | 平成27年度の方向性 担当部の考え方 | 平成27年度取組予定 |
|-----|--------------------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① | めいわく駐車対策事業 | B. 見直し | <ul style="list-style-type: none"> ・毎年度同様の啓発活動を行うのではなく、啓発方法や委託先など事業実施方法について再検討する必要がある。 ・警察と連携し、役割分担を明確化する必要がある。 | <p>本来、警察が行うべき迷惑駐車対策委託業務を廃止し、計画的に泉大津警察署、泉大津市交通安全協会、市民ボランティア（地域交通安全推進委員）及び泉大津市との連携を図り、市内道路において迷惑駐車防止の啓発運動を行う。</p> | <p>○迷惑駐車合同パトロール 6月18日（木）14時～15時 8月13日（木）14時～15時 9月24日（木）14時～15時 11月12日（木）14時～15時 以降、2ヶ月に1度、実施予定。</p> <p>○迷惑駐車防止街頭キャンペーン 年間2回実施予定</p> <p>○広報紙、ホームページでの啓発活動</p> |
| ② | 公園維持管理事業 | B. 見直し | <ul style="list-style-type: none"> ・安全管理といった義務的な部分は、継続して市が行う必要がある。 ・自主管理公園は、市民との協働、他部局との連携を視野に入れ、公園の在り方、効果的な運用を再検討する必要がある。 ・公園の規模の大小は別にして、画一的なものではなく、地域にあった特徴のある公園の整備が必要である。 | <p>公園の安全管理については、施設管理者である市の責務である。現在も、職員及び委託業者により公園の巡回や遊具の日常点検を行い、安全の確保に努めている。公園施設や遊具は、老朽化が進行していることから、公園施設長寿命化計画を策定し、遊具等の安全管理に努める。</p> <p>地域の団体が公園の美化や緑化を目的とした活動を行うことにより、維持管理ができていた自主管理公園については、今後、管理公園数が増えることにより、効果的な管理ができると考えている。</p> <p>多くの公園は、公園開設時の実情に応じた遊具等が設置されている。年月の経過により、地域の年齢構成や遊具等のニーズも変化していることから、公園の整備にあたっては、地域の特徴を把握する必要がある。</p> | <p>平成27年度に主な公園の公園施設長寿命化計画の策定を予定している。</p> <p>平成28年度以降に公園長寿命化計画に基づく遊具等の更新工事を予定しているが、遊具等の整備にあたっては、地域の特徴を把握し実施する予定である。</p> |
| ③ | 福祉健康農園維持管理事業 | B. 見直し | <ul style="list-style-type: none"> ・35年間同じ形で事業を行っているが、近年、ノーマライゼーションや多世代交流が謳われるなか、市民農園など、コミュニティづくりを視野に入れた事業の運用が必要である。 ・法改正により民間参入が可能となったため、市が単独で事業を行うのではなく、JAや社会福祉法人等との連携を図り、お互いの便益を実現できる事業の運用を検討するのをもひとつである。 | <p>福祉分野においては農業・園芸活動を通じて得られる心身のリハビリテーション効果や共同作業による社会促進効果が改めて評価されており、国も福祉農園の利用者数の拡大を政策目標に掲げている。</p> <p>本市でも福祉農園は常に待機者が発生するほど住民ニーズが高く、それに代わる福祉目的の農園整備はなく、利用者から応分の負担を求めていることから、現行通り継続していく。</p> <p>ただし、中長期的な視点では市が実施主体のままでは発展性に乏しい。外部評価で指摘のあったとおり、法改正により民間参入も可能となったため、市内に施設をもつ社会福祉法人との意見交換会の中で社会福祉法人が運営する福祉農園の事例について情報提供を行った。</p> | <p>現在の事業形態・内容を継続していく一方で、より発展的に地域づくり・コミュニティづくりが展開できる運営形態について、今年度も地域の法人や団体などと意見交換を行いながら調査・検討を行う。</p> |
| ④ | 市税等徴収事務事業 | A. 継続 | <ul style="list-style-type: none"> ・市税の徴収は市の根幹をなす業務であるため、今後一層の徴収率向上が望ましい。 ・大阪府（徴収機構）との連携やコールセンター等の民間活用を費用対効果のなかで検討していく必要がある。 | <p>更なる徴収率向上のため、平成27年4月に設置された大阪府域地方税徴収機構へ参加し、徴収困難で高額な案件については、同機構に移管しその解決を図ると同時に、参加することにより職員の事務スキルの向上を図る。</p> | <p>4月からは機構へ正式に移管するための事前準備期間とし、6月から本格稼働となる大阪府徴収機構へは5月下旬に147件、71,576千円の案件を移管した。</p> <p>また、本年10月から実施予定の国民健康保険料との徴収一元化に伴い、必要となる規則改正や窓口のレイアウト、運用方法などの協議を継続して行い、併せて担当職員の研修等も行っていく。</p> <p>加えて、民間活用については、費用対効果においてメリットの高い、ペイジー口座振替受付サービスの導入を予定し、納付環境の更なる改善を進めていく。</p> |
| ⑤ | フカキ夢・ひとづくり海外派遣研修事業 | B. 見直し | <ul style="list-style-type: none"> ・研修生の市への貢献については、市が便益を得ることができ、市政に反映できるような事業の在り方やターゲット、内容を再検討するとともに、語学研修以外の事業も幅広く検討していく必要がある。 ・国際交流協会との連携を視野にいれた事業の検討が必要である。 | <p>平成18年度から語学研修として、8年間で約70名の青少年を派遣してきた。応募者も多く、大変好評な事業であるが、研修生の市へのフィードバックの取組を検討するとともに、今後は語学研修に限定せず、要綱にある他分野での研修も検討する。</p> <p>また、国際交流協会との連携を視野に入れ、今後は語学研修生に市の国際交流事業に参画してもらうなどの取組を実施していきたい。</p> | <p>市へのフィードバックの取組として、修了生にフォローアップアンケートを実施した。また、「おもてなし隊」を結成し、泉州国際マラソンにおいては、友好都市グレータージョージア市から派遣されたマラソンランナーの通訳ボランティアを務めるなどの活動を行った。</p> <p>平成27年度は語学以外の分野について研修を実施。現在、市が国際認証の取得を目指しているセーフコミュニティについて、既に取得している海外の自治体の先進事例を調査研究するための研修に市民を派遣する。市民が先進市の取組を学ぶことにより、本市のセーフコミュニティ活動の更なる推進を図る。</p> |